

令和 2 年 6 月 24 日現在

機関番号：32612

研究種目：基盤研究(C) (一般)

研究期間：2017～2019

課題番号：17K02741

研究課題名(和文) 日本・アイヌ語及び南米アンデス・アイマラ語の口承テキストの回復・公刊と分析

研究課題名(英文) Recovery, Publication, and Analysis of Japanese Aynu and South-Andean Aymara Oral Texts

研究代表者

藤田 護 (Fujita, Mamoru)

慶應義塾大学・環境情報学部(藤沢)・講師

研究者番号：50726346

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,100,000円

研究成果の概要(和文)：アンデス先住民言語であるアイマラ語および日本の先住民言語であるアイヌ語について、聞き取り調査を通じて新たなデータを収集しつつ、かつて収集された未公刊・未公開になっている資料についてその回復作業を進めることができた。また、これらの口承文学(口頭で伝承された物語)の内容を、人類学の新しい理論的動向に基づいた、人間と動物を含めた世界の諸存在との関係が物語の内容にどのように現れているかという観点から、分析を進めることができた。

研究成果の学術的意義や社会的意義

いわゆる「危機に瀕した言語」とされるアンデス先住民言語および日本のアイヌ語については、アイマラ語には現代においても多数の話者がおり、アイヌ語についても若い世代を中心に言語を回復しようとする動きが進んでいる。このような現代的な状況に対して、資料の記録と回復と公刊は研究者が行うことのできる重要な貢献であり、その意味で社会的意義があった。また、アンデスとアイヌの口承文学が近年の文化人類学における研究動向であるパースペクティビズムの観点からどのように分析できるかは、いまだに十分に組み込まれていない研究主題であり、その点において学術的意義があった。

研究成果の概要(英文)：Through this research project, for Aymara (an indigenous language of the Andes) and for Aynu (an indigenous language of Japan), we were able to collect and recover additional oral narrative recordings and previously gathered unpublished materials.

研究分野：言語人類学

キーワード：危機言語 パースペクティビズム 口承文学 口承史(オーラルヒストリー) 先住民言語

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

南米アンデス高地の先住民言語は、話者数が多いながらも危機言語に分類され、また、アイヌ語は、現在ほぼ日常生活で使用されることがなくなってしまっている。そのような言語の資料を蓄積・公開し、利用可能な形にすることは、それぞれの言語の知識を向上させるだけでなく、それらの言語の地位を向上させ、日常に回復していくことにもつながる。

2. 研究の目的

本研究は、申請者が専門とする日本のアイヌ語及び南米アンデス高地のアイマラ語の、二つの言語について、口承テキスト及び一部会話の録音と旧資料の回復作業を進展させ、それらの公刊に向けた作業を継続するとともに、それらの口承テキストにおける語りのメカニズムや文学と歴史の相互関連などの特徴について考察を進めることを目的とする。

各々の言語の話者数は大きく異なるが、ともに社会的に低い位置に置かれた言語であり、それぞれの言語資料を扱う能力を有する専門家が少ない。この研究の取り組みが進むことは、それぞれの言語についての理解を深めるだけでなく、その言語を学ぼうとする先住民の若い世代の努力を後押しし、各言語の社会的地位の向上に資する等の、社会的目的を併せ持っている。

3. 研究の方法

アイヌ語については、散文説話の収集と整理作業が基本となる。幌別方言の話者であった金成マツ氏による金田一京助および知里真志保に宛てた筆録ノートについて目録の精緻化に取り組む。同時に、金田一京助宛筆録資料については、日本語との原文対訳及び難読箇所と同定を進める。また、久保寺逸彦が収集した散文説話は日本語訳のみが公開されているため、そのアイヌ語原文による久保寺氏自身の筆録ノートを収集し、翻刻・対訳作業を進める。アイマラ語については、ラパス県の溪谷部における調査を継続し、また都市部のアイマラ語ラジオ放送局の文化番組担当者のアイマラ語の語りの調査を本格的に行う。これらは、アイマラ先住民団体の一つであるアンデス口承史工房 (Taller de Historia Oral Andina, THOA) との連携の下で進め、同組織の内部にある未公開資料の刊行作業に協力する。

理論面では、アンデス人類学における文字以外のリテラシー (広義の「識字」) について考察するとともに、その研究動向に基づいたアイマラ語の口承の語りの特徴について考察する。特に、口頭での語りと、アンデスの織物を縫う技術との共通性に注目する。また、エドゥアルド・ヴィヴェロス・ヂ・カストロの議論を基にして、彼が参照しているアマゾニアの神話の例とアイヌの口承文学との間に、どのような類似性と相違点があるかについての論文を執筆する。その際に、なぜアンデス地域がこの枠組みにうまく適合しないのかその原因を考察する。

4. 研究成果

(1) アイマラ語については、新たにラパス県溪谷部の伝承や地域の歴史 (オーラルヒストリー) の調査を進めるとともに、アイマラ語による日常会話の録音を進め、新たな録音資料をもとにした聞き起こしを進めることができた。また、現地先住民団体であるアンデス・オーラルヒストリー・ワークショップとの連携の下で、20世紀初頭のアイマラ先住民運動についての、過去に録音されたアイマラ語資料の回復作業を進め、調査者自身がこれまでに蓄積してきた調査資料との組み合わせと照らし合わせの作業を進めることができた。

(2) また、隣接するケチュア語圏でも、初等教育における二言語異文化間相互教育に携わる教員のグループと連携し、地域に根付いた口頭伝承とその子どもたちへの伝承の可能性について共同での取り組みを開始するとともに、この言語に関する口承の語りの録音を蓄積することができた。

(3) これらの調査者が入手した録音データは、逐次現地の協力者たちとの共有を進め、調査者による独占を防ぎ、共有されたリソースとして活用される土台を整えた。

(4) アイヌ語については、当初北海道博物館のアスベスト問題による長期閉館により、調査の開始が遅れたが、金成マツによる筆録ノートの確認と入手、久保寺逸彦による筆録ノートの確認と入手を進め、既に刊行されている目録との照合作業を進め、かつ翻刻・翻訳作業に取り掛かることができた。

(5) これらの収集作業をもとに、書記(エクリチュール)の概念の織物や図像(icono)や口承の語りへの適用について近年進展するアンデス研究の動向を参照しつつ、自らのデータを分析する形で国際学会の発表を2件行った。この論文化の作業を進めている。

(6) これらの収集作業をもとに、近年文化人類学で議論されてきた人間と動物及び動物を含む世界の諸存在との関係を見直し、文化と自然の二項対立を見直す(「パースペクティビズム」と「多自然主義」の)議論を参照しつつ、アンデスの口承文学とアイヌの口承文学を比較し、招待講演で発表した。これの論文化の作業を進め、2020年度内に公刊される予定である。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計5件（うち査読付論文 3件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 5件）

1. 著者名 藤田護	4. 巻 201
2. 論文標題 その一瞬に死に、その一瞬を生きる 津島佑子『黄金の夢の歌』における英雄叙事詩・記憶・死者の追悼	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田護	4. 巻 21
2. 論文標題 アイヌとアンデスの口承文学の間で 多自然主義、パースペクティビズム、文明意識	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 千葉大学ユーラシア言語文化論集	6. 最初と最後の頁 -
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 杉原由美、藤田護	4. 巻 19
2. 論文標題 新しい批判的多言語主義と多言語教育への含意 SFC / 慶應における実践から	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 SFC Journal	6. 最初と最後の頁 4-17
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田護	4. 巻 195
2. 論文標題 南米アンデスの多言語小説・スペディング『時を経て現れるサトゥルニーナ』における女性たちの口承言語の躍動	5. 発行年 2018年
3. 雑誌名 人文研究	6. 最初と最後の頁 35-62
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 藤田護	4. 巻 17
2. 論文標題 津島佑子『ジャッカ・ドフニ 海の記憶の物語』における口承の歌と物語 不完全な記憶の中で生きていくために	5. 発行年 2017年
3. 雑誌名 Keio SFC Journal	6. 最初と最後の頁 298-323
掲載論文のDOI (デジタルオブジェクト識別子) なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている(また、その予定である)	国際共著 -

〔学会発表〕 計6件(うち招待講演 0件/うち国際学会 6件)

1. 発表者名 Mamoru Fujita
2. 発表標題 Español en contacto con aymara en la zona de valle y de altiplano de La Paz, Bolivia.
3. 学会等名 Congreso Internacional I ALFALito “Dinamicas linguisticas de las situaciones de contacto” (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 藤田護
2. 発表標題 スペディングの小説『鉄の寝台』における1952年革命へのオルタナティブな視線
3. 学会等名 日本ラテンアメリカ学会定期大会(国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUJITA, Mamoru
2. 発表標題 Miradas alternativas a la “Revolucion del 52” en la novela Catre de fierro de Spedding
3. 学会等名 X Congreso Internacional de la Asociacion de Estudios Bolivianos (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 FUJITA, Mamoru
2. 発表標題 Español en contacto con aymara en la zona de valle y de altiplano de La Paz, Bolivia: Una comparacion bilingue de los textos de narraciones orales (cuentos)
3. 学会等名 Congreso Internacional I ALFALito "Dinamicas linguisticas de las situaciones de contacto" (国際学会)
4. 発表年 2019年

1. 発表者名 Mamoru FUJITA
2. 発表標題 Dynamics of Adapting Imperfect Memories and the Laws of the Indies in Interpreting Tsushima Yuko's Jakkha Duxuni: Stories of Oceans' Memories.
3. 学会等名 57th Annual Meeting of the Association of Japanese Literary Studies (国際学会)
4. 発表年 2018年

1. 発表者名 Mamoru Fujita
2. 発表標題 La dinamica oral y anarquista en De cuando en cuando Saturnina de Spedding
3. 学会等名 Congreso Asociacion de Estudios Bolivianos (国際学会)
4. 発表年 2017年

〔図書〕 計1件

1. 著者名 中川裕編	4. 発行年 2018年
2. 出版社 千葉大学大学院人文公共学府	5. 総ページ数 87
3. 書名 アイヌ語の文献学的研究(3)	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----